

社会政策学会 *Newsletter* No. 6 (通号No.23) 2000.4.15

代表幹事 伊藤セツ 〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7 昭和女子大学女性文化研究所気付
TEL:03-3411-5096 FAX:03-3487-6850 E-mail:jo-2100@swu.ac.jp
URL <http://oisr.org/sssp/>

目次

第15回、第16回幹事会報告
第100回大会近づく
第100回大会時総会の招集
第101回大会の準備状況
地区活動報告
部会活動報告
学会誌編集委員会活動報告
業績リスト担当者より
承認された新入会員

総会の招集

2000年5月27日(土)明治大学駿河台校舎での社会政策学会第100回大会時(17:00~)総会を招集します。詳細は、近じか開催校よりプログラムに同封されるご案内をご覧ください。

代表幹事

社会政策学会第15回幹事会記録

出席者：荒又、伊藤、岩田、埋橋、遠藤、大沢、上井、黒田、坂脇、関口、玉井、二村、三富、森、
欠席者：相澤、石田、熊沢、佐口、島崎、下山、高田、中川、中原、浜岡
日時：2000年1月22日(土)午後2時~5時
場所：昭和女子大学大学1号館2階大会議室A)

- 議題に先立って、坂脇幹事から第99回大会終了について挨拶があった。
- 会員の現勢・会費納入状況報告と自動退会者の確認
現勢：会員数961人(内院生59人、名誉会員18人)但し2000年3月31日退会予定者12名
納入義務会員：943人中84%の納入率、未納会員148人、うち5年以上20人、4年18人：この38人については会則に従い自動退会とすることとした。
- 第100回大会関係の固め
(1)自由論題の応募結果に基づくプログラム編成
自由論題申し込みは12本であった。4会場にまとめ、座長は関東以外の幹事を代表幹事の勘案で決めることとした。
(2)テーマ別分科会の確定と時間配分
テーマ別は6分科会が予想され、6分科会成立した場合、午前、午後2の本立てとすることとした。
(3)共通論題の準備進展状況
共通論題担当の佐口、中川両幹事欠席。玉井幹事から報告あり。1月に1度集まったが3月にもう一度集まる。
(4)時間配分、総会の配置を討議した。
(5)会場：明治大学23階建て建物の15階にある演習室をあてている。懇親会は250名規模のところをとっている。OHP、スライド、ノート型から直接のプレゼンテーション機器は事前に知らせてもらえればすべて応じられる。(必要な方は本部に連絡してください)
- 改革案について：上井幹事別紙配布
財政問題については意見の統一がみられなかった。次回継続審議する。
- 学会誌第3号の進捗状況と次期編集委員会(黒田編集委員長)。偶数号との統一問題。秋の大会の持ち方との関連での自由応募論文欄の必要性。書評欄の問題等がはなしあわれた。
- 第18期日本学術会議の選挙取り組みの経過報告と今後の方向：遠藤幹事から報告があった。
選挙人予備者1名(松丸氏)を選出し、候補者と4人で方針を出し、前回の経験を生かしながらこれまでとは違った積極策で運動中。幹事各位の協力をお願いしたい。
- 選挙に関する規程の見直し(二村選挙管理委員長)：
幹事会で意識しておいてほしいこと
地域別名簿に外国が分類されていない問題
推挙という言葉 推薦の方がよい。多くの被推薦人が出るようにする方がよい。分科会の責任者等。郵送投票の封筒に住所氏名記入の問題。記入でよいのではないか。
その他、不測の事態で欠員が生じたときの補充方法：次点を繰り上げるとかを決めておく。
- 国際交流に関する規程と委員の交代(二村幹事)
次期国際交流担当は埋橋、関口が推薦され反対なしで了承された。
- 名誉会員の推挙
リストが提示された(欠席幹事には郵送済み)。代表幹事は、今年は多くの方を対象にしたい。次回決定する。
- 学会賞の幹事による推薦(2月末日迄)
- 第101回大会(玉井幹事)及び各地区活動
第101回大会は10月28日(土)29日(日)立命館大学で
テーマ：変容する福祉国家と社会政策
- 新入会員11名が承認された(後掲)

社会政策学会第16回幹事会記録

出席 伊藤、埋橋、遠藤、上井、黒田、佐口、関口、
玉井、中川、二村、森

欠席 荒又、相澤、石田、岩田、大沢、熊沢、坂脇、
下山、高田、中原、浜岡、三富、島崎

オブザーバー：深澤

日時 2000年4月8日 午後3時15分～6時20分

場所 昭和女子大学光葉庵

報告事項

- ・第103回大会の会場は、2001年10月20日(土)東北学院大学(齊藤義博会員責任者)21日(日)は東北大学(日野秀逸会員仲介)で開催する予定。
- ・佐口卓氏、大友福夫名誉会員に弔電を打ちました。長い間の社会政策学会へ御貢献に感謝し、ご冥福をお祈りします。
- ・3月初旬に業績リスト仮綴じが完成し、学会賞選考委員に送り、3月24日全員出席で第1回学会賞選考委員会が開催され、荒又委員が委員長に互選された。
- ・日本学術会議から、女性候補を考慮したか、次期の計画はどうなっているかのアンケートがきた。
- ・日本経済学会連合会の海外学会参加の助成の申し込み締め切りは6月初旬。

議題

1. 新入会員の承認 7名(後掲)
2. 名誉会員の推挙：小川政亮、佐野稔、島崎晴哉、戸木田嘉久、内藤則邦、星島一夫、吉村励7氏を推挙することとした。
3. 会計報告が行なわれた。これを監査にかけることとなった。
4. 改革WGより上井幹事が提案し次の点が承認された。
 - (1)大会企画委員会を設置する
 - (2)発表機会を拡大する。秋の大会にも自由論題を設ける。
 - (3)学会誌を改革し、科学研究費の学会誌刊行助成を得る報告にもっていく。
 - (4)大会参加費を2001年の第102回大会から春・秋ともに徴収する。
一般会員3000円、院生会員2000円。非会員の参加費については別途検討する。
5. 編集委員会より、2000年～2002年度学会誌編集委員会の構成が提案され承認された。
出版社の統合を目指し、4の(3)を受けて内容の統一をはかる。
6. 第100回大会研究大会準備状況、共通論題、プログラム・座長の確認(後掲)
7. 総会等の持ち方について検討した。
8. 第101回大会の進捗状況が深沢敦会員より報告された。
テーマのネーミングに新しさをもたせ、何がキーワ

ードかを明らかにして、何に凝集するか、春の大会との差異、その発展に考慮してほしいとの意見が出た。報告者等は承認された。書評分科会については未討議のまま終わった。

第101回大会準備 中間報告

開催日時：2000年10月28日(土)～10月29日(日)
開催場所：立命館大学衣笠校舎(以学館)
共通論題テーマ：「福祉国家」論の射程(仮題)

2000年春の第100回大会の共通論題のテーマ「自己選択と共同性—20世紀の労働と福祉—」では主として日本を中心として「労働と福祉」の関係が論じられることになると考えられますが、本大会では最近の「福祉国家類型」論研究の世界的進展を踏まえて「国際比較」に重点をおきながら、20世紀の「福祉国家」を総括しつつ21世紀の社会についてのより豊かな展望を切り拓く契機となるような大胆な問題提起(とりわけ Welfare と Workfare の新たな関連づけなど)がなされるように準備中です。

報告者(報告のタイトルは仮題にすぎません)：

福祉国家の理論(立命館大学 宮本太郎会員)
福祉国家の歴史(九州国際大学 高田実会員)
発展途上国の福祉(北星学園大学 イト・ベンゲ
会員)

Workfareと福祉国家(立教大学 池上岳彦教授)
福祉国家の財政(岡山県立大学 山本隆会員)
Genderと福祉国家(東京大学 大沢真理会員)

コメンテーター：埋橋孝文会員(大阪産業大学)
平岡公一会員(お茶の水女子大学)
高島進会員(日本福祉大学)
大本圭野会員(東京経済大学)

9. 国際交流に関する規程は、関口、埋橋幹事にゆだねることとした。
10. 選挙に関する規程の改正案のポイントが二村選管委員長から出され、会則13条の改正が必要であることが明らかになった。
11. 業績リストの報告期間は従来どおり、PDFでの2年度分のホームページへの掲載は二村幹事をお願いすることとした。
12. 東北部会寒川委員から、第103回大会開催について、次回大会時の幹事会からオブザーバー参加の要望が有り承認された。
13. 学会賞選考委員会の進捗状況が代表幹事より報告され、受賞資格と入会期間に関する解釈について、第1回審査委員会開催まで会員暦3年以上とすることを了承した。

第100回大会近づく

場所：明治大学 駿河台校舎 2000年5月27日(土)、28日(日)開催校からご案内が届きますが、あらかじめ予告しておきます。

社会政策学会第100回大会プログラム

(所属は2000年3月31日現在)

5月27日(土)9.30~11.30

テーマ別分科会(1)

1. 現代社会保障の問題と改革課題

座長 工藤恒夫(中央大学)
所得保障 唐鎌 直義(大正大学)
医療保障 西岡 幸泰(専修大学)
社会福祉・介護サービスの保障 - 社会福祉構造改革、市場化と公的責任 - 芝田 英昭(立命館大学)

2. 今日の人材育成問題—技能・訓練問題を中心に

座長 木村保茂(北海道大学)
合理化と教育訓練の階層性—鉄鋼業と中小企業の事例から 上原慎一(鹿児島経済大学)
テクニシャン養成の現段階—自動車及び電機産業を中心に 永田萬享(福岡教育大学)
ドイツにおける職業教育の展開 久本憲夫(京都大学)

3. 提言:ジェンダー政策パッケージ--均等待遇原則と個人単位

座長 大沢真理(東京大学)
発題者:雇用差別禁止:浅倉むつ子(東京都立大学)
雇用保険:小倉波子(東京市政調査会)
年金:伊田広行(大阪経済大学)
介護保障:袖井孝子(お茶の水女子大学)
公的扶助:大沢真理(東京大学)

<昼休み:11.30~13.00>

5月27日(土)13.00~14.45 テーマ別分科会(2)

4. 社会環境の変化と生産システム革新

座長 上井喜彦(埼玉大学)
社会環境の変化と企業・組織・生産革新 藤田栄史(名古屋市立大学)
ボルボ・ウデヴァラ方式の現在(auto nova 工場)とその生産システム原理の可能性

野原光(広島大学)

セル生産方式の展開—現状と特徴

浅生卯一(弘前大学)

5. 家族と労働供給戦略

座長 山本 郁郎(金城学院大学)
戦前期日本の「小経営」と家族労働力 在来産業の事例を中心として 谷本 雅之(東京大学)
インドネシアにおける小営業と家族労働力-織物業地場産業の事例から 水野 広祐(京都大学)

6. 社会保障の国際比較 - 日韓比較

コーディネータ - 埋橋孝文(大阪産業大学)
コメンテータ - 李静淑(四国学院大学)
社会保障・社会福祉における日韓比較 崔 成龍(同志社大学大学院文学研究科博士後期課程)
医療保険制度の日・韓比較 張炳元(日本社会事業大学社会事業研究所客員研究員 韓国保健福祉部保険政策課長)

5月27日(土)15.00~16.45 自由論題

第1会場 労使関係(1) 座長 浜岡政好(仏教大学)

- 1-1 アメリカ公民権法の人事管理へのインパクト 片岡 洋子(京都大学大学院生)
1-2 国家公務員の勤務評定制 戦後初期における制

度導入・形骸化過程の分析

岡田真理子(東京大学大学院生)

1-3 戦時期日本における「勤労者」像の形成

佐藤充泰(横浜国立大学大学院生)

第2会場 労使関係(2) 座長 中原弘二(九州国際大学)

2-1 EU社会政策と市場経済 - サンプル多国籍企業の欧州

ワークス・カウンスルに対する評価について

中野 聡(豊橋創造大学)

2-2 「人に依存した生産形態」の展開と人材活用

白井邦彦(釧路公立大学)

2-3 労働者協同組合における管理と労働

塚本一郎(佐賀大学)

第3会場 社会福祉・社会保障

座長 坂脇昭吉(鹿児島大学)

3-1 企業福祉をめぐる最近の研究動向

桜井善行(名古屋市立大学大学院生)

3-2 公的介護保険とホームヘルプ労働

佐藤卓利(立命館大学)

3-3 阪神・淡路大震災被災者の生活再建と社会保障制度

との接点を考える—西宮市内応急仮設住宅入居世帯の生活調査を素材として—

金持伸子(日本福祉大学名誉教授)

第4会場 ジェンダー

座長 三富紀敬(静岡大学)

4-1 自動車産業における女性参入の実態 現場の労働体験から

首藤若菜(日本女子大学大学院生)

4-2 高度成長期の総評労働組合運動と女性組織---家族賃金イデオロギーをめぐる

山田和代(筑波大学)

4-3 人事制度の変化とジェンダー

大槻奈巳(上智大学大学院生)

<17.00~17.45 総会>

<18.00~20.00 懇親会>

5月28日(日)9.30~14.30

共通論題

自己選択と共同性 20世紀の労働と福祉 -

午前の部 9.30~12.00

コーディネーター 佐口和郎(東京大学)

座長 岩田正美(日本女子大学)

グローバリズムと社会的セイフティネット

金子勝(法政大学)

『雇用流動化』論の歴史的意味

佐口和郎(東京大学)

20世紀と福祉システム - 日本を中心に -

玉井金五(大阪市立大学)

<昼休み:12.00~13.30>

午後の部 13.30~17.00

20世紀の家族と自己変容 - 選択と共同性の間 -

中川 清(慶應義塾大学)

総括討論

自由論題の分類は、必ずしもご希望に添っていません。報告時、プレゼンテーション機器を使用希望の方は、あらかじめ本部にご連絡ください。

1999年度社会政策学会地区活動報告と部会活動報告

地区活動報告

(形式は統一していません)

北海道部会

1. 5月22日 北海道部会研究会 札幌学院大学
報告者 山田昭夫氏 (札幌学院大学)
論題 19世紀末東欧移民とイギリスの失業問題
参加者 7名
2. 7月31日 北海道部会研究会 札幌大学
報告者 高橋克嘉氏 (國學院大学)
論題 2つの出稼ぎ労働論—大河内一男と柳田国男—
参加者 6名

美馬 孝人 記

東海部会

以下のように第2回研究会を行いました。

- テーマ ペイ・エクイテイ
日時 1999年12月4日
場所 中京大学
報告 居城舜子「アメリカ合衆国のペイ・エクイテイ運動の展開・現状と課題」
森ます美「日本におけるペイ・エクティ実践の試みから」

三富紀敬 記

東北部会

1. 部会開催
日時 1999年9月4日(土) 13:00~16:30
場所 富士大学 5号館 会議室
報告 「岩手県の介護保険の現状と課題」
渡辺 幸良(富士大学)
司会 藤澤 建二(岩手大学)
「福祉サービスにおける入所型施設課題に関する一研究」 村田 道彦(東北福祉大学大学院)
司会 藤澤 建二(岩手大学)
「社会保障構造改革の基本問題」
相澤 與一(長野大学)
司会 伊部 正之(福島大学)
出席 11名

2. 社会政策学会 第103回大会 会場確保: 当大会を東北部会が担当することになり、会場確保等の下準備をする。
寒川 尚周 記

関東部会

社会政策学会関東部会は、さる1999年7月10日(土)午後2時から4時30分まで行われた。会場は國學院大学渋谷キャンパスである。(國學院大学へは渋谷駅東口から学03乗り場で、「日赤医療センター行き」バスを利用すると分かりやすい。約10分程度)

テーマ・報告者は、「最近の大企業のリストラの特徴と雇用問題」藤田実会員(桜美林大学)・「労働法制の『規制緩和』と雇用の流動化問題」斉藤力会員(全労働省労働組合)であった。藤田報告は、統計データや調査資料に基づき、この間の技術変化、リストラクチャリングと雇用構造の変化を実証的に論証した。斉藤報告は派遣労働の原則自由化の問題を中心に取り上げ、その内容と問題点を指摘した。約25名の会員が参加した。山本潔会員、桜林会員、宮嶋会員など論客を交え、活発な討論が行われた。この部会討論の内容に関心がある会員は法政大学大原社会問題研究所の五十嵐仁会員のホームページに氏のコメントが掲載されているので参照していただきたい。

小越洋之助 記

関西部会

1. 関西部会研究会
日時 1999年12月4日(土) 午前10時30分—午後4時30分
場所 大阪市立大学文化交流センター
出席者 33名
特集 「専業主婦をめぐる新しい視点」
司会 埋橋孝文会員(大阪産業大)
総括討論座長 小松満貴子会員(武庫川女子大)
研究報告
1) 脱家族化と専業主婦
居神 浩(神戸国際大)
2) 高齢社会における家事労働の社会化
黒田慶子(東京都立大)
3) 専業主婦の形成と解体—生活のための労働の視点から—
服部良子(大阪市立大)

専業主婦についての新たな研究動向をもとに、歴史、現状、将来という多岐の時代にかかわる論点の提示があり、理論面、実証面の議論において非常に充実した刺激的な会となった。

2. 総会
1) 第101回大会について浪江会員(立命館大)から概要説明がなされた。
2) 第2編集委員会の専門委員について佐藤会員(立命館大)と服部会員(大阪市立大)が担当することの了解を得た。

玉井金五 記

中国・四国部会

- 日時: 1999年11月13日
場所: 下関市立大学 学術センター3階大会議室
報告
1 パートタイム労働の国際比較 - ヨーロッパの事例による一考察
田中 裕美子(下関市立大学経済学部)
2 「情報通信技術革命」と新たな生産・労働パラダイム
長井 偉訓(愛媛大学法文学部)
3 「中国の老人福祉の現状について - 上海を中心にし

て」

- 富吉 繁貴 (徳山大学経済学部)
 4 「大恐慌期フランス社会政策の改革と障害 - 人民戦線内閣の政策経験」
 向井 喜典 (大阪経済法科大学)

参加者 12名

渡辺 満 記

九州部会

第69回研究会

日時 1999年9月4日(土)

会場 九州国際大学研究棟7階会議室

出席者 18名

報告 現代日本における外国人労働者の就業構造 - -
 国際労働移動の要因に関する一考察 - -
 九州大学大学院 久保文一
 経済構造改革と雇用 - - 電気通信事業の事例分

富田義典 記

析 - -

- 西南学院大学 平木 真朗
 日本の社会保障と企業福祉 - - 高齢者の生活保障を中心に - -
 福岡県立大学 平野 泰朗

第70回研究会

日時 2000年2月5日(土)

会場 佐賀大学経済学部 第一会議室

出席者 20名

報告 占領期労働組合運動史研究の現状と課題
 九州大学 兵頭 淳史
 ドイツの介護保険制度 - - 公共性の展開 - -
 福岡県立大学 豊田 謙二

部会活動報告

社会保障部会

- 第98回大会(1999.5.29~30、慶応義塾大学)において、以下のテーマと報告者をもとに分科会を開催した(司会:相澤與一幹事、長野大学)。
 社会保障構造改革の背景と意味
 (田多英範、流通経済大学)
 地域介護様式と公的介護保険制度
 (平野隆之、名城大学)
- 第100回大会(2000.5.27~28、明治大学)の分科会では、「現代日本社会保障の問題と改革課題」を共通テーマに、次の3名の会員が報告する予定である。
 所得保障(唐鎌直義、大正大学) 医療保障(西岡幸泰、専修大学) 社会福祉サービスの保障(芝田英昭、立命館大学)。
- 第98回大会時に開催された当専門分科会への出席者を中心に、社会保障部会員の第一次名簿(53名)を作成した。

工藤恒夫 記

をいただき、活発な討論を行いました。

討論は、階級とエスニシティ、階級と階層、ペンリン争議とパターナリズム、労使関係における「翻訳」の問題、アソシエーションとクラブ、労働者クラブと労働組合、ボランティアリズムと国家など多岐にわたり、興味深い論点や事実が提示されました。

労働史部会12月研究会

労働史部会12月研究会は、12月4日(土)、東京大学経済学部第一共同研究室で開催され、森建資会員(東京大学)の報告、「自由主義と雇用関係の狭間 辻内鏡人(つじうちまこと)『アメリカの奴隷制と自由主義』について」に基づいて、佐口和郎会員の司会によって、「自由労働イデオロギー」や奴隷制と雇用関係の関連などを中心に活発な議論が行われました。参加者は12人でした。参加者の一人として、著者の辻内さんにも参加していただいて直接森報告へのリプライをいただくなど、充実した討論を行うことが出来ました。

関口定一 記

労働史部会

今年度労働史部会は、以下の二つの研究会を組織しました。一昨年の秋の大会で開催した書評分科会は、今年度は諸般の事情から開催を見合わせました。

第98回大会のテーマ別分科会:「イギリス労働史のフロンティア」

5月29日(土)に慶応義塾大学で開催された、社会政策学会大98回大会のテーマ別分科会の一つとして、労働史分科会を開催しました。

分科会は30人を超える参加者を迎え、座長の市原博(城西国際大学)さんの司会によってすすめられました。今回のテーマは「イギリス労働史のフロンティア」として、久木尚志(北九州大学・外国語学部)さんと小関隆(東京農工大学)さんから、それぞれ「世紀転換期ウェールズにおけるペンリン争議」、「19世紀末の労働者クラブ」と「シティズンシップ教育」というタイトルでご報告いただいた後、小野塚知二(東京大学)会員からコメント

総合福祉部会

第6回 研究例会

日時 1999年7月10日(土)

場所 京都府立大学

参加者 11名

テーマ:住宅と高齢者福祉

報告1:早川和男(神戸大学名誉教授)

「居住福祉について」

報告2:山田尋人(特別養護老人ホーム健光園施設長)

「高齢者福祉と住まい」

*今日的に関心の高いテーマで、充実した報告をしていたが、参加者が少なかったことは残念であった。

第7回 研究例会

日時 2000年3月18日(土)

場所 立命館大学

参加者 25名

第1部(午前) 報告:宮本太郎(立命館大学)

「福祉国家論の動向と課題～『日本型福祉国家』
分析のために～」

第2部(午後) テーマ:スウェーデン福祉国家の新展開

報告1:パール・トルベルグ(セーデルテルン大学)
「スウェーデンモデルの過去と現在」

コメント:宮本太郎(立命館大学)

報告2:ピクトール・ペストフ(セーデルテルン大学)
「福祉国家の再編と非営利・協同セクタ

ー」

コメント:川口清文(立命館大学)

* 第2部は、立命館大学の政策科学研究会との共催で、スウェーデンから2人のゲスト報告を聞くことができた。午前と午後を通して、スウェーデン福祉国家についての興味深い研究会となり、参加者の感想も非常に好評であった。

上掛利博 記

学会誌編集委員会1999年度活動報告

編集委員長 黒田 兼一

これまでの『年報』と『叢書』を『社会政策学会誌』として統合し、年2回発行する。この総会決定(1998年10月、岐阜経済大学)に基づいて、1999年7月21日付で第1号を『日雇労働者・ホームレスと現代日本』(御茶の水書房刊)として発行し、続いて第2号を10月20日付で『高齢社会と社会政策』(ミネルヴァ書房刊)として発行した。装丁を含めて大幅なりリニューアルとなったこともあり第1号の発行は大幅に遅れてしまったが、第2号は関係者の努力で大会開催時までには発行できた。発行時期の問題はあったが、初年度としてはまずは順調なスタートといえるだろう。

この教訓に基づいて、1999年度の編集委員会は「発行時期を可能な限り早めるよう努力する」との活動計画を立てた。執筆者と出版社の努力で第3号は4月の初旬には発行できるはずである。引き続き第4号の9月下旬の発行をめざして活動中である。

学会では1997年よりレフリー制をもった自由投稿方式を採用し、優れた論文を『学会誌』に掲載してきたが、1999年度も大会の自由論題報告者を中心に投稿してきた。それらの論文の水準は年々向上しているとはいえ、残念ながら投稿者の数は必ずしも期待通りとはいえない。学会誌のさらなる充実のため、今後とも投稿論文の水準の向上とともに投稿者数の拡大に向けた努力が必要であろう。

1999年度の編集委員会の重要な課題として委員会体制の整備があった。奇数号担当の第1編集委員会、偶数号担当の第2編集委員会、それぞれの伝統を尊重しながら、統一的な運営に向けて、合同委員会を開催して意志疎通を密にし、編集業務に関する諸規定を整備した。またそれぞれの委員の改選次期を統一化する(春の総会時改選)ことにした。しかし後述する『学会誌』発行をめぐる諸問題を考慮すれば、編集委員会の体制の抜本的な改革が必要になってきている。

さて今後とも『学会誌』の年2回発行を維持しながら

誌面充実をはかっていくことは当然なことではあるが、しかし容易ではない。1999年度の編集委員会の活動全体を通して痛感させられ、かつ早急に着手されなければならない最重要課題は財政問題である。

周知のように学会誌の発行費用はすべて学会費で賄っているが、現行の予算で年2冊の学会誌を発行するには無理がある。出版社の理解と協力があって何とか発行できている状態なのである。学会財政全体の問題ではあるが、このまま放置すれば発行不能の状態に陥らないとも限らない。学会費の値上げを避けながら維持していくためには、科学研究費の助成を受ける必要がある。補助金を受けることは学会財政の改善の一助になるだけでなく、何よりも学会誌として外部から評価されたことをも意味するからである。

しかしその助成を受けるには、誌面のよりいっそうの充実が不可欠の条件である。とりわけ、奇数号と偶数号の誌面を可能な限り統一性を保てるように改善していく必要がある。また投稿論文の充実(具体的には、書評欄のあり方を検討しながら、偶数号にもレフリー制をもった投稿欄を設けること)および英文サマリーをつけるなどは不可欠の要件となっている。これらの課題を実現するためにも第1編集委員会と第2編集委員会のあり方の検討が必要であるし、統一的な編集方針の確立が必要であろう。2000年度の編集委員会の努力を期待したい。

社会政策学会誌第2編集委員会報告

第101回大会での書評分科会の構成について目下検討を進めています。第2編集委員会委員、分野別専門委員から推薦された著書、評者について西村豁通委員長、服部良子・佐藤卓利専門委員、池田信委員(事務局担当)の協議で素案を作り、各委員の意見を重ねて聞いて確定する途上にあります。

池田 信 記

会員に問う—業績リストは必要ですか？

早川征一郎

社会政策学会員の業績リスト作成事務局を引き受けて3年になります。いまは、学会賞選考委員会宛の「業績リスト一覧」(仮)をお送りし、ほっとしたところです。もうすこししたら、『大原社会問題研究所雑誌』10月号に掲載すべく、さらに内容の正確さを期すために、疑問のある記入についてチェックし、掲載原稿にする予定です。疑問のある記入とは、主に図書中論文の場合が多く、編者がはっきりしないものなどです。

ところで、私自身は、業績リスト作成にあたったのは、これが最初ではありません。会員の業績申告とリスト作成が始まったのは、大学紛争の前、研究者の自己点検と相互点検の強化という意味を込めて、社会政策学会でも導入されました。

最初の作成事務局は、東大社研の氏原正治郎研究室が引き受けました。その時、便宜上、作成委員会を事務局でつくりました。メンバーは、氏原正治郎先生、高梨昌氏、早川征一郎(当時、東大社研助手)でした。私の役目は、まず会員個人の業績カードのフォーマットをつくり、往復葉書の文案をつくることでした。そして、事実上は、高梨昌氏と相談しながら、それができると葉書の発送を氏原研究室のアルバイトの人たちに依頼し、戻ってきた葉書を個人カードに転記してもらい、それに基づいて年報用原稿をつくるように、さらに依頼し、それをチェックし、完成原稿を提出することでした。もちろん、当時は全て手書きの時代でしたから、アルバイトの方の作業は実に大変でした。

その氏原先生はすでに故人ですが、高梨氏は現在、日本労働研究機構の会長をやり、私は大原社会問題研究所の所長ということで、先日会い、労働関係の資料収集方針などについて懇談しました。これも、何かの巡り合わせでしょう。

古い話をもち出し、恐縮ですが、最初はアシスタントとして手伝いましたが、現在は、責任者として事務局を引き受けております。

この2度の経験をつうじて、現在に至るも分らないのは、会員各自が、この業績リストの意義をどのように考えているかです。とにかく、業績リスト作成事務局にはほとんど反応が返ってこないのです。幹事として幹事会にも出ましたが、そこでも反応はいま1つです。研究者としての自己点検と相互点検の方法として、この業績リストが必要ではないという意見も聞いたことがありませんが、積極的な必要性を唱える意見もあまり強くは聞こえてきません。

しかも、学会改革、年報改革の一環として、多くのスペースを取る業績リストは、年報から削除されました。事態を見かねて、『大原社会問題研究所雑誌』で引き受け、掲載しておりますが、残念ながら、相変わらず、ほとんど反応がありません。他方、率直に言って、所内の一部には、「原稿料もいただくわけではなく、ただ掲載することで、研究所にとってどんな意義があるのか」といった疑問の意見も実際に存在します。その場合、会員の積極的反応があれば、大変、応答しやすいのですが、他の論文掲載を犠牲にして、ページを多く取っている現在、内部への説得性という点でも、いま一つ、苦しいのが現状です。誤解のないように言えば、雑誌掲載をやめたいと言っているわけではありません。

表題のとおり、会員が、この業績申告とリスト作成の意義について、どのように考えているかについて、どういう場であれ、率直な意見を出してほしいということです。そのために、幹事会と相談し、たとえば、次回業績申告の際、アンケート用紙を同封し、直接にご意見をうかがうということも一案かと考えております。とにかく、いろんな場をつうじて、率直なご意見をお聞かせください。

2000年4月5日

業績リスト作成事務局 責任者：早川 征一郎
(Tel.042-783-2307) (Fax.042-783-2311)
(Mail:oharains@mt.tama.hosei.ac.jp)

第100回大会報告者の皆様へ

プレゼンテーション用機器使用希望の方は本部に5月10日までご連絡ください。

第100回大会参加者の会員の皆様の交流コーナー

抜き刷り等配布物等おありの方は御持参ください。

新入会員の承認と紹介

1月22日の幹事会での承認（下記11名）

氏名	所属	専門	推薦者
小谷幸	早稲田大学大学院人間科学研究科博士課程院生	産業・労働社会学	河西宏祐、中村真人
姉齒暁	県立新潟女子短大	消費経済学、福祉政策日欧比較	伊藤セツ、森ます美
矢野篤	三重大学人文学部	民法、アメリカ法	米川紀生、三富紀敬
木村隆夫	名古屋経済大学	経済学原論	三富紀敬、猿田正機
高瀬雅弘	東京大学大学院教育学研究科博士後期課程	教育社会学	佐口和郎、関口定一
原田康美	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程	社会保障、社会福祉	関口定一、松丸和夫
中野雅至	厚生省生活衛生局	公共政策論、開発論	芝田英昭、篠田武司
岡田元浩	甲南大学経済学部	労働市場論	熊沢誠、篠田武司
中村又一	守口市福祉事務所生活福祉課	公的扶助	中山徹、庄谷怜子
藤原正仁	中央大学大学院商学研究科博士前期課程	労務管理論	関口定一、松丸和夫
崔 成龍	同志社大学大学院文学研究科博士後期課程	社会福祉学	井岡勉、埋橋孝文

4月8日の幹事会で承認（下記7名）

劉麗	日本女子大学大学院人間生活学研究科生活環境学専攻博士後期課程	労働問題	高木郁朗、首藤若菜
関谷みのぶ	日本女子大学大学院人間生活学研究科生活環境学専攻博士後期課程	高齢者介護サービス	堀越栄子、高木郁朗
牟智煥（もじふぁん）	法政大学大原社会問題研究所客員研究員	労働福祉学	早川征一郎、鈴木玲
萩田房夫	中遠社会保険研究会代表	比較政策学	三富紀敬、布川日佐史
伊藤周平	九州大学人間環境研究院助教授	法律経済	川上昌子、唐鎌直義
村上雅俊	関西大学大学院経済学研究科博士後期課程	社会保障論	岩井浩、伊藤セツ
淵本知抄	関西大学大学院経済学研究科博士後期課程	経済統計学	岩井浩、伊藤セツ

本部事務局より

- ・2000年度会費請求が近々届くことと思います。請求にしたがって速やかに納入をお願いします。
- ・この号をもって、昭和女子大学を事務局としたニューズレターの発行を終わらせていただきます。

伊藤セツ・森ます美